

農業景況DIは プラス値を維持 設備投資意向は 上昇の見通し

—農業景況調査(2025年7月調査)—

農業における各種景況DIについての調査結果を紹介
します。

前年に続きプラス値継続

2025年上半期の農業全体の景況感を示す農業景況DIは6・6となりました。24年の通年実績である10・5から3・9ポイント低下するも、プラス値を維持しました表1。

業種別では、北海道の稲作が34・4、都府県の稲作が33・5と、大幅なプラス値となりました。この要因としては、米の価格が高い状況が続いていることが大きく影響していると考えられます。また、茶が47・6ポイント上昇し44・6、採卵鶏が75・2ポイント上昇し34・0となりました。この要因としては、一番茶、卵ともに価格が上

昇していることが挙げられます。

加えて、北海道の酪農が41・7ポイント上昇し13・5、都府県の酪農が33・3ポイント上昇し3・6と、20年以降初めてプラス値に転換しました。この要因としては、これまでの乳価引き上げに加えて、25年度も乳価の引き上げが発表されたことなどが影響していると考えられます。

その他にも、景況DIがプラス値となった業種は多く、キノコが12・9ポイント上昇し17・7、養豚が9・9ポイント上昇し14・6となりました。

一方で、景況DIが低下した業種は、畑作が8・0ポイント低下し▲37・0、施設花きが7・4ポイン

ト低下し▲43・9、露地野菜が13・1ポイント低下し▲5・8、施設野菜が14・1ポイント低下し▲9・0となりました。また、景況DIが上昇したものの依然としてマイナス値が継続した業種は、果樹が2・1ポイント上昇し▲2・0、肉用牛が19・9ポイント上昇し▲17・8、ブロイラーが13・9ポイント上昇し▲14・8となりました。

販売単価DIは、13・6ポイント低下しましたが、33・6とプラス値を維持しました。業種別では、都府県の稲作が15・5ポイント低下し73・6、採卵鶏が76・1ポイント上昇し68・5、茶が58・4ポイント上昇し65・3、北海道の酪農が47・8ポイント上昇し64・4、養豚が1・1ポイント上昇し63・8と大幅なプラス値となっています。

一方で、販売単価DIがマイナス値になった業種は、畑作が9・0ポイント低下し▲10・1、施設花きが74・2ポイント低下し▲38・8、肉用牛が22・7ポイント上昇し▲10・4となりました。

生産コストDIは5・4ポイント上昇し▲74・0となりました。業種別でも、全業種において▲30を超えるマイナス値となっており、農業全体としてコスト高の状況が続いている様子がうかがえ

ます。なお、畜産ではブロイラーを除きマイナス幅が10ポイント以上縮小しました。要因としては24年4～6月期以降、飼料価格が低下傾向にあり、価格高騰が一段落したことが挙げられます。

通年見通しもプラス値維持

2025年通年見通しの農業景況DIは7・0となりました。25年上半期実績の6・6からほぼ横ばいで推移し、引き続きプラス値となる見通しです。

業種別でみると、25年上半期の景況DIがプラス値だった業種は、キノコを除き通年見通しでもプラス値を維持しています。まず、茶が9・5ポイント上昇し54・1、北海道の稲作が12・1ポイント低下し22・3、都府県の稲作が4・6ポイント上昇し38・1、採卵鶏が11・2ポイント低下し22・8、養豚が4・0ポイント上昇し18・6、北海道の酪農が3・2ポイント低下し10・3、都府県の酪農が17・6ポイント上昇し21・2となりました。

一方で、いくつかの業種では通年見通しがマイナス値となっており、畑作が10・7ポイント低下し▲47・7、施設花きが1・4ポイント上昇し▲42・5、肉用牛が2・6ポイント上昇し▲15・2の順とな

◆ 2025年上半期農業景況DIはプラス値を維持

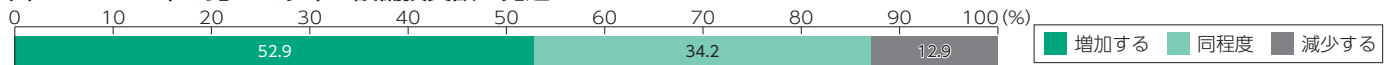
表1 農業の各種DI値

		景況DI			販売単価DI		収支DI		資金繰りDI		生産コストDI		雇用状況DI		設備投資予定 ありの比率(%)	
業 種 / 時 点		2024年 実績	25年 上半期実績	25年 通年見通し	24年 実績	25年 上半期実績	24年 実績	25年 上半期実績	24年 実績	25年 上半期実績	24年 実績	25年 上半期実績	24年 実績	25年 上半期実績	24年	25年
農業全体		10.5	6.6	7.0	47.2	33.6	7.5	3.9	▲ 0.7	▲ 1.5	▲ 79.4	▲ 74.0	▲ 37.4	▲ 36.6	53.2	60.2
耕 種	稲作(北海道)	64.8	34.4	22.3	85.9	54.5	66.7	34.6	41.5	26.4	▲ 79.0	▲ 79.8	▲ 38.5	▲ 38.8	54.8	70.9
	稲作(都府県)	50.8	33.5	38.1	89.1	73.6	50.1	41.8	34.9	24.8	▲ 72.9	▲ 74.0	▲ 41.8	▲ 41.9	62.1	76.5
	畑作	▲ 29.0	▲ 37.0	▲ 47.7	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 34.0	▲ 38.7	▲ 31.6	▲ 27.5	▲ 85.9	▲ 85.4	▲ 38.9	▲ 37.5	56.7	57.6
	露地野菜	7.3	▲ 5.8	▲ 9.7	41.5	15.3	0.2	▲ 9.2	▲ 10.3	▲ 17.4	▲ 87.0	▲ 85.6	▲ 35.9	▲ 34.9	57.5	55.4
	施設野菜	5.1	▲ 9.0	▲ 3.3	51.5	14.5	▲ 3.4	▲ 11.7	▲ 10.3	▲ 20.0	▲ 86.9	▲ 84.5	▲ 28.6	▲ 33.0	52.0	55.2
	茶	▲ 3.0	44.6	54.1	6.9	65.3	▲ 2.9	45.1	▲ 11.8	21.6	▲ 77.2	▲ 73.0	▲ 36.4	▲ 48.6	42.5	59.5
	果樹	▲ 4.1	▲ 2.0	▲ 2.3	55.6	55.4	▲ 9.1	▲ 4.3	▲ 14.7	▲ 12.5	▲ 85.8	▲ 81.5	▲ 41.4	▲ 39.4	44.5	52.0
	施設花き	▲ 36.5	▲ 43.9	▲ 42.5	35.4	▲ 38.8	▲ 41.4	▲ 46.0	▲ 35.4	▲ 46.6	▲ 95.6	▲ 92.5	▲ 22.2	▲ 25.0	42.6	49.4
	キノコ	4.8	17.7	▲ 3.3	60.3	29.9	3.2	19.3	▲ 1.6	21.0	▲ 96.8	▲ 85.5	▲ 42.8	▲ 40.3	53.1	60.0
	畜 産	酪農(北海道)	▲ 28.2	13.5	10.3	16.6	64.4	▲ 33.8	4.9	▲ 40.1	▲ 7.0	▲ 85.4	▲ 64.5	▲ 42.9	▲ 35.3	40.7
酪農(都府県)		▲ 29.7	3.6	21.2	14.2	39.0	▲ 32.4	6.0	▲ 34.8	▲ 5.0	▲ 67.5	▲ 43.9	▲ 31.7	▲ 27.8	47.8	55.2
肉用牛		▲ 37.7	▲ 17.8	▲ 15.2	▲ 33.1	▲ 10.4	▲ 40.7	▲ 10.6	▲ 37.4	▲ 27.5	▲ 75.6	▲ 61.9	▲ 34.3	▲ 31.0	40.4	38.3
養豚		4.7	14.6	18.6	62.7	63.8	14.7	14.1	2.3	3.0	▲ 54.3	▲ 33.0	▲ 32.3	▲ 33.2	55.1	61.8
採卵鶏		▲ 41.2	34.0	22.8	▲ 7.6	68.5	▲ 46.3	37.9	▲ 25.3	30.4	▲ 74.8	▲ 52.2	▲ 43.2	▲ 30.4	48.7	52.6
ブロイラー		▲ 28.7	▲ 14.8	▲ 12.7	▲ 2.8	10.7	▲ 30.1	▲ 31.3	▲ 30.2	▲ 19.3	▲ 74.0	▲ 73.9	▲ 28.7	▲ 20.7	39.3	48.9

【DIについて】①「よくなった」 ②「変わらない」 ③「悪くなった」から一つ選ぶ形式となっており、「よくなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。
ただし雇用状況DIは「①過剰である ②適正である ③不足である」から一つ選ぶ形式となっており、「過剰である」の構成比から「不足である」の構成比を差し引いたもの。

◆ 「昨年に比べ増加する」と「昨年と同程度」を合わせると87.1%と約9割

図1 2024年と比べた今年の設備投資額の見込み



投資マインドはやや上昇
2025年の設備投資予定について「設備投資予定あり(または実施済み)」と回答した割合は60・2%で、24年の53・2%から7・0ポイント上昇しています。
業種別で見ると、北海道の稲作が16・1ポイント上昇し70・9%、都府県の稲作が14・4ポイント上昇し76・5%、養豚が6・7ポイント上昇し61・8%と高い値となりました。これらの業種は、24年実績から25年見通しまでの景況DIがプラス値となっている業種とも重なっており、景況感の安定が設備投資に対する前向きな姿勢につながっている様子がうかがえます。
また、他の業種でも「設備投資予定あり(または実施済み)」と回答した割合は上昇しています。具体的には、キノコが6・9ポイント上昇し60・0%、茶が17・0ポイント上昇し59・5%、北海道の酪農が10・5ポイント上昇し51・2%、都府県の酪農が7・4ポイント上昇し55・2%、果樹が7・5ポイント

長期の景況は回復の兆し
農業全体の農業景況DIの動きを長期的にみると、2019年ごろまではプラス値の年が多く、比較的安定した推移をしていました。ところが、20年から23年の4年間は▲20を超える大幅なマイナス値が続く、厳しい経営環境となっていたことがうかがえます。
20年は、コロナ禍による外食需要の低迷や娯楽などを控える自粛ムードにより、肉用牛や花き、茶などの業種で販売単価が下落した点などにより、景況DIが落ち込みました。
一方、露地野菜は2・1ポイント低下し55・4%、肉用牛は2・1ポイント低下し38・3%となりました。
また、25年の設備投資を「設備投資予定あり(または実施済み)」と回答した者に対して、25年の設備投資額の増減見通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する」との回答が52・9%と約半数を占めました。
図1。「同程度」の34・2%と合わせると87・1%と約9割となりました。この点からも、設備投資に対する姿勢が前向きになっていることがうかがえます。

その後、22年以降はコロナ禍からの社会経済活動の正常化に伴い景況が回復傾向となり、販売単価DIは上昇に転じました。しかしながら、21年後半からは原材料費が上昇したことで生産コストDIが▲60を超える大幅なマイナス値となり、この結果、景況DIはマイナス値が継続しました。景況DIのマイナス幅は、耕種よりも畜産のほうが大きく、原材料費高騰の影響をより強く受けていたことがわかります。このことから、畜産経営の大部分を占める飼料費の高騰が経営に与えた影響が大きいことがうかがえます。

23年以降の生産コストDIの推移をみると、年々マイナス幅を縮小させているものの、依然として大幅なマイナス値が継続しており、原材料費高騰の影響は現在に至るまで継続していることがわかります。一方で、販売単価DIの動きをみると、23年に5年ぶりのプラス値となり、24年には米価上昇などで大幅なプラス値となりました。これにより、24年には農業景況DIがプラス値に転換しており、コスト高の厳しい経営環境が続く状況においても、明るい兆しがみえてきたことがうかがえます。

25年上半期は、米価上昇に伴う

稲作の景況DIの上昇に加え、酪農などの畜産でも景況DIが上昇し、農業全体の景況感改善の動きをみせています。このことから、コロナ禍以降継続した厳しい経営環境は底を打ったとみることができ、生産コストは高止まりを続けていることや、業種別でも施設花きや畑作では景況DIが悪化していることから、いまだ楽観視はできないものと考えられます。本調査では、引き続き農業全体の景況感を注視し、農業者の皆さまへのご支援に生かせるよう、広く情報提供をしてまいります。

結果の詳細は日本公庫ホームページに掲載しています。

(情報企画部 高田 圭介)

農業景況調査



【農業景況調査／調査概要】

- 調査時点
2025年7月
- 調査方法
調査票による郵送アンケートおよびインターネット調査
- 調査対象
スーパーL資金／農業改良資金融資先計2万194先
- 有効回答数
5201先(回収率25・8%)

※本文中にある▲は、マイナスを示します。

◆ 長期の景況DIは回復の見通し

表2 景況DIの長期推移

景況DI	2015年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年 上半期実績	25年 通年見通し
農業全体	16.8	20.0	21.2	▲11.1	6.0	▲24.9	▲29.6	▲39.1	▲26.9	10.5	6.6	7.0
耕種												
稲作(北海道)	20.1	▲4.9	39.7	▲51.8	26.5	▲3.6	▲55.2	▲44.3	▲49.3	64.8	34.4	22.3
稲作(都府県)	▲3.8	23.6	10.3	▲10.7	11.4	▲33.4	▲55.9	▲39.5	▲22.1	50.8	33.5	38.1
畑作	35.2	▲17.6	34.8	▲22.7	31.6	▲32.3	0.2	▲31.8	▲49.2	▲29.0	▲37.0	▲47.7
露地野菜	14.3	14.7	7.5	▲3.4	▲9.3	▲32.8	▲21.4	▲15.5	▲17.5	7.3	▲5.8	▲9.7
施設野菜	20.3	26.3	15.0	▲1.4	▲22.4	▲28.1	▲32.3	▲28.8	▲11.7	5.1	▲9.0	▲3.3
茶	▲53.1	11.1	26.5	▲14.5	▲53.1	▲78.0	▲0.9	▲15.5	▲31.2	▲3.0	44.6	54.1
果樹	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲16.8	11.9	▲7.7	▲2.7	▲4.1	▲2.0	▲2.3
施設花き	▲5.9	11.8	▲10.6	▲13.7	▲20.2	▲40.2	5.8	▲3.2	▲19.5	▲36.5	▲43.9	▲42.5
キノコ	15.2	1.1	▲2.5	▲21.0	▲23.2	3.0	▲40.8	▲59.8	▲7.7	4.8	17.7	▲3.3
畜産												
酪農(北海道)	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲19.3	▲32.8	▲87.7	▲56.8	▲28.2	13.5	10.3
酪農(都府県)	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲16.4	▲39.5	▲84.8	▲45.7	▲29.7	3.6	21.2
肉用牛	48.5	50.3	17.5	4.7	▲0.2	▲43.9	▲3.1	▲62.0	▲52.1	▲37.7	▲17.8	▲15.2
養豚	48.8	26.2	59.4	▲27.2	▲4.1	44.3	▲36.4	▲74.2	▲31.7	4.7	14.6	18.6
採卵鶏	71.0	40.8	32.7	▲61.2	▲38.9	▲43.8	22.6	▲65.4	65.1	▲41.2	34.0	22.8
ブロイラー	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲2.1	▲41.1	▲14.7	▲28.7	▲14.8	▲12.7

図2 各種DI(農業全体)の長期推移

